

都市生活生協支援

第10号

1995.6.27

救援ニュース

都市生活現地救援本部
西宮市今津山中町9-9
電話：0798-36-6679

新たなスタート

— 多くのなかまに支えられ —

生活協同組合都市生活
理事長 前川 智佳子

6月7日、第9回通常総代会が行われました。95年度活動方針案が満場一致で可決され、幸先のよいスタートが切れました。震災後7つの支部の中で支部大会が開催されたのは、尼崎、宝塚、北神戸のみでした。総大会後、南神戸、西神戸が開催される予定です。開催する場所がなかなか見つからず、やっと開催される運びとなったものです。被災の大きかった西宮、東神戸については今年度支部大会を開催することは無理かもしれません。以上のような状況の中で、総代会の実出席が100人以上あったことは大変喜ばしい限りです。

1、2、3月は理事会を開催するのも難かしい状況で、理事の中には2時間半以上もかけて理事会に臨んだ人たちもいました。毎日状況が変わり、刻々と変化していく中での対応は責任が重くのしかかってくるものでした。その時々には最大の努力と熱意をもって事に当たったことは言うまでもありません。

その間、多くの生協、東は生活クラブ連合、西はグリーンコープ連合、そして私たちと隣接している大阪事業連合、Lコープの方々に義援金だけではなく、人的援助などの支援をいただいたことで、協同組合連帯を実感いたしました。全国の協同組合の仲間が支えてくれているという認識を新たにしました。西宮センター内におかれている現地救援本部に多くの人たちが集まって救援活動に参加していただいています。都市生活は震災を通して多くの人に出会うことができました。それは私たち都市生活の組合員にとって財産と言えると思います。

まだまだ私たちの地域が元に戻るには時間がかかると思われますが救援本部のみなさんと組合員と職員とが皆で力を合わせて元気を失わず活動を続けていきたいと思います。

がんばれ都市生活

生活クラブ生協神奈川

町田 進さん

5月22日から2週間にわたって「都市生活」現地救援本部で活躍された生活クラブ生協神奈川の町田進さんからレポートが届きました。以下はその抜粋です。(編集部)

地域復興全体について考えることは、手に余ることであり、都市生活生協組合員のできる範囲の救援活動を展開することで充分と思います。

その一つとして、福祉の問題があります。今後ますます生活弱者が取り残されていく状況ははっきりしていく中で、福祉活動は重要な柱となると思います。

福祉というと大きな感じになりますが、生活クラブ神奈川の例でいえば、これまで都市生活の組合員の方たちが行っている炊き出しや仮設住宅向けの保育、高齢者のケアなどの活動を、組織化し、持続していけ

ば、それが福祉になるのです。ただし、ボランティアとしてやるには大変な面もあり、いずれ地域の人たちと共にワークスを作っていくことが必要になってくるかもしれません。同じ課題が青空市にもあてはまるでしょう。(中略)

日本の中で、今こそ生協、農協、漁協が力をあわせ、地域協同社会のビジョンを強烈に打ち出し、阪神地方に具体的な形で見えるものを作っていくべき時だと思います。そこを意識しつつ全体化できるかどうか、私たち協同組合陣営に問われている課題と思います。

現地救援本部 INFORMATION

- 6/30 (金) 救援青空市 (西宮市老松公園内仮設住宅)
班代表会を公園内の小松北町自治会館で行い、同時に青空市を開催します。
- 7/1 (土) 救援青空市 (神戸市西区学園東町地域福祉センター)
学園東町ふれあいリサイクルバザーに参加します。
- お問い合わせは都市生活現地救援本部 (TEL 0798-36-6679) まで。

あじさいセンター昼食会

ボランティアに参加して

泉北生協 牛込伊里子さん

2時間かけて着いた伊丹の仮駅舎、地震で倒壊した駅よりずいぶん手前でした。伊丹は私が20歳まで住んでいた土地です。家族でよく初詣に来たなつかしい宮の前の猪名野神社内にあるあじさいセンターで、近くの独居老人などの方々にお昼のお食事を作って食べていただくというのです。

かやく御飯でアクシデントがありました。何とか出来上がりました。(民生委員の方が作って下さった「きゅうりもみ」が特においしく、作り方をじっくりと教えていただきました。)

そしてお昼近くになって集まってこられるお年寄りの方々がどなたも精一杯の「おしゃれ」をして来られるのです。喜んでおられるということが伝わってきて、ほのほのとした気持ちにさせてもらいました。

都市生活の組合員の方々、民生委員の方々と短い時間でしたが一緒に働くことができ、また、6月2日に泉北生協に尼崎支部の富板さんに来ていただきお話を伺っていたことも重なって、楽しく色々と勉強になったひとときでした。富板さんは泉北

に来られたとき、「私は何もしないのです」とおっしゃっていましたが、その存在感は大きく、おられるというだけで心強い方でした。

皆さん一週間に一回程度ボランティアで即売その他いろいろと動いておられると聞きました。主婦をして、母をして、嫁をして、妻をしての一週間はあつという間です。この皆さん方のバイタリティーに感銘しながら帰途につきました。



現地救援本部 新スタッフ紹介

あほざとし 阿保智志 生活クラブ生協千葉

今回6月19日から2週間、千葉生活クラブから都市生活生協現地救援本部にお世話になる阿保といいます。生協入職歴は17年、年齢は40歳前後。自由な服装、好きにものが言える、ただこの2点のために長いこと勤めています。でもそこが大切と思っています。

1月17日の阪神大震災以来、メディアを通じてですが、現地の被災状況、救援活動、避難所のことなど知るにつけ、現在に到っても2万人

以上の人々が避難所暮らし、仮設住宅での高齢者の死など、この国に住む者として生命の軽視に心痛む思いでした。

短いですが、現地救援本部での活動に参加する機会を得、みなさんの活動に学ぶことによって、人の尊厳と命の大切さを実感できればと思っています。肉体的作業以外役に立たない状況ですが、大切なことは何かを得て帰りたいと思いますのでよろしくお願いします。

ふるかわ 純 (30歳) グリーンコープ事業連合

現地到着初日に被災地を案内していただき、感想としては、「きれいだなあ」でした。私のイメージは、TV報道で、ひどい場所、それも1月の時点のものでした。しかし、じっくりと見ていくうちに、1階部分がつぶれたままの建物や、多くのがれきの山があり、「きれいだなあ」は

「やっぱりひどい」に変わりました。復興の進むスピードが地区で違いすぎるように感じました。私は2週間しかいません。多くのことはできません。ただ、この2週間で、人として何かをし、帰るときに私の気持ちを置いていきたいと思っています。

おわびと訂正

救援ニュース第9号1ページにあるタイトル中の発行日が誤っておりましたので訂正いたします。

誤：1995.6.13

正：1995.6.20

御迷惑をおかけして誠に申し訳ありませんでした。